

平成22年1月15日

「社会人の学び直し講座」他校等訪問調査報告書

事業の名称：大学教育改革プログラム・合同フォーラム
日 時：平成22年1月7, 8日(木、金): 10:00~17:00
場 所：東京ビッグサイト 会議棟
主 催：文部科学省・財団法人文教協会
報告者：工藤康紀

報告内容

1月7日(木)

民主党の来年度予算では、高校改革が中心であったが、再来年度は大学改革が中心となるだろうとのこと。

午前中は、開会行事と基調講演：天野郁夫 東京大学名誉教授

タイトル 「大学教育改革の課題と展望」

内 容 : 課題は分かっている。が、それが解決されないから、いつまでも同じ問いかけがされている。大学審議会によって、大学の大纲化、自由化が進められてきたが、7割のものが研究中心と答え、教育と研究の両立は不可能と考えるものが50%いる。

中教審では、大学教育改革の課題が解決されていないとの答申が繰り返し出されているが、「では、何故か?」については、どこにも書かれない。

アメリカでの教育改革で実施された「FD、シラバス、授業評価、、、」などの小道具は輸入されたが、日本とアメリカでは全く違うものになっている。

大学院修士課程などの高等教育改革はなされたが、今後は、ポスト高等教育が課題である。

午後は、総合的な学生支援(学生支援プログラム)分科会に参加

- ・東京女子大学...「マイライフ・マイライブラリー」...学生の社会的成長を支援する滞在型図書館プログラム
- ・長岡大学...「学生の3つの就職力一体形成支援プログラム」...就職基礎力、就職活動情報力、就職活動展開力
- ・東京家政学院大学...連携システムに就職情報を統合した双方向ネット就職支援システム

その後、ポスターセッションへ参加。

- ・「社会人の学び直し」関係では、10数校が出展していたが、ほとんどが今年度または、前年度採択されものであり、本校のように平成19年度採択校はなかった。そのため、事業年度終了後の対策についての知見は得られなかった。

1月8日(金)

- ・本校から持参したパンフレットを会場の一室に置く場所があったので、そこへ行って、訪問者の質問に回答するなどした。パンフは「学び直し」事業全体のパンフレットを30部、本年度実施した「SolidWorks講座」の募集案内チラシを20部程度持参した。「SolidWorks講座」のチラシは全て売り切れた。事業全体のパンフレットも3枚を残して配布できた。

その間に、ポスターセッションへ参加。

- ・どの大学も「学生の確保に必死である」との印象を受けた。今後の少子化へ向けた対策を考えているという感じでした。

平成22年1月25日

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託」他校訪問調査報告書

相手校：福井工業高等専門学校

事業の名称：「高専ものづくり塾3Dデザイン・設計講座 ～就職支援と企業人プッシュアップ～」

日時：平成22年1月20日（水）11：00～12：00

場所：福井工業高等専門学校 福井県鯖江市（〒916-1111）

対応者：福井工業高等専門学校 総務課評価・地域連携係 東 義雄 様

訪問者：大分高専 技術部 中道 つかさ

報告内容

(1) 応募の背景・動機

- 福井高専が位置する福井県鯖江市は世界でも有数の眼鏡枠産であり、国内の眼鏡枠の95%を生産している。本事業では、これらの企業で今最も重要な技術の一つである、3次元CADによるデザイン・設計の技術を離職者あるいは企業技術者を対象に講習し、就職支援あるいは技術者のレベルアップを行った。定評ある、高専の「ものづくり教育」を就職支援に生かすと共に、地域の企業が必要とする人材発掘を行いたいという背景から本事業をスタートさせた。

(2) 運営体制・組織

- 福井高専は平成17年に鯖江市、越前市、鯖江商工会議所・武生商工会議所と地域連携協定を結んだ。これにより、このプロジェクトを福井県機械工業共同組合連合会、ふくい産業支援センターが支援する。
 - 実施計画・管理 ……福井工業高等専門学校
 - 講習会講座のカリキュラム作成…福井工業高等専門学校
 - 実施会場 ……福井工業高等専門学校
 - 講師 ……外部講師（福井高専卒業生）
 - 企業との調整・受講募集 ……福井工業高等専門学校、鯖江市商工会議所
武生商工会議所、福井商工会議所（他4企業）

(3) 事業内容

- 福井県内でも3次元CAD技術は設計・開発において最も重要な技術となっている。そのため、講座名称「高専ものづくり塾3Dデザイン・設計講座～就職支援と企業人プッシュアップ～」として、Rhinoceros（ライノセラス）ver.4という3次元CADソフトを使用した講座を実施。
- 定員は25名として募集し、年度別の応募者数・修了者数は表1に示す。
- 受講料は講習会開催の経費分担を求めると、講習会参加の自覚を促すために、3,000円を徴収している。
- 受講期間は、月・火・木・金 週4回4週間開催。計16回実施。他に参加自由講座として質疑応答を目的とした講座を4回実施した。開催時間はいずれも18：30～20：30までの2時間。上記を年3回に分けて行った。
- カウンセラーの常駐は行っていない。
- 講座場所は福井高専内の教室を使用した。
- 全講座の欠席回数が3回以内で、講師の見極めで合格した者を修了として修了証書授与を行う。証明書の有効性については講座終了1年後にアンケート調査をする予定である。
- 講師は、福井高専の卒業生で一般企業にお勤めの山口直邦氏をお招きしている。
- 募集は、地元新聞の他に、ポスター、チラシを地場企業や商工会議所、公民館、ハローワークに配布した。

表1、年度別講座受講者数 (単位：人)

	応募者数	受講者数	修了者数	履修証明書発行数
H19年度	32	29	25	25
H20年度	21	21	16	16

(4) 評価体制等

- ・ 評価体制は、まず学校長、副校長、各学科及び教室主任等により構成される「自己点検評価委員会」において、毎年度ごとにプロジェクトの評価を適正に行う。
- ・ その後フォーラムを開催して成果を社会に公表するとともに評価を受ける。

(5) 学び直し事業終了後について

- ・ 委託事業終了後も継続して実施する場合の実施方法及び実施体制（組織等）については検討中とのこと。継続する際の問題点としては外部講師への報酬に当てる予算確保ができるか不明であるため、受講料を10倍程度にあげないといけないと懸念していた。
- ・ 事業で購入した設備・備品等の利用方法については、学生の授業などに有効活用していく予定とのこと。

(6) その他

- ・ 講座のポスターを下図に示す。

企業で設計・デザイン関係を担当されている方、求職中の皆さん。
今、福井県の産業界で最も必要とされている3次元CAD技術を学んでみませんか。



この講座では3次元CAD「Rhinoceors(ライノセラズ)」の基本操作から実際のモデリングまでを学習しますので、眼鏡・機械・電気産業などデザインを重視する企業への就職に有利です。基本から応用まで丁寧に教えます。この講習会は何回でも受講出来ます。

講習会のスケジュール
1ヶ月(4週)の講習とし、月、火、木、金の週4回、計16回実施します。講習時間は、毎日午後6時半から8時半までの2時間です。平成21年度は6月、9月、12月に実施予定ですが、何回でも受講可能です。講習会終了後には復習を希望する方のために自立講座を月4回(毎週水曜日)開催します。

第1回目	
募集期間	5月20日(水)～5月29日(金)
講座開催期間	6月1日(月)～6月26日(金)計16回 【自立講座 7月に4回(毎週水曜日)】
講師	山口直邦氏

第2回目	
募集期間	8月19日(水)～8月28日(金)
講座開催期間	8月31日(月)～9月29日(金)計16回 【自立講座 10月に4回(毎週水曜日)】
講師	山口直邦氏

第3回目	
募集期間	11月18日(水)～11月27日(金)
講座開催期間	11月30日(月)～12月25日(金)計16回 【自立講座 12月に4回(毎週水曜日)】
講師	山口直邦氏

主な講座内容	
◆ウォーミングアップ 3D CADソフトRhinoceorsについての主な機能紹介 基本的な操作法実習 モデリングの基礎	◆演習 サーフェスの作り方 実際のモデリング
◆ステップアップ 自由曲面の作り方 ソリッドモデル	◆実証 継続時の作成 ディテール処理 さらに学びたい人へのアドバイス

受講料：3,000円 データ取得料も各自のパソコンメモリ等は各自に用意ください。

講師：本校のCAD技術関連教員、学外講師[山口直邦氏・榎井光啓(株)]

なお、このプログラムは鯖江商工会議所のご支援により実施いたします。

平成 22 年 2 月 22 日

「社会人の学び直し講座」他校訪問調査報告書

相手校：茨城工業高等専門学校

事業の名称：「組み込みシステムの基礎から実践までを体系的に学ぶ教育プログラム」

日 時：平成 22 年 2 月 16 日（火）13：00～15：00

場 所：茨城工業高等専門学校 茨城県ひたちなか市中根 866（〒312-8508）

対応者：飛田 敏光 電子制御工学科准教授
滑川 英世 電子制御工学科嘱託教授

訪問者：高石 伸一，永田 玲央

報告内容

（１）応募の背景・動機

- 電子機器業界で 9 万人が不足している組み込み技術者を育成することを目的として応募した。
- 茨城高専電子制御工学科では、以前から民間企業と組み込み技術に関する共同研究を行っていたことから、茨城大学より依頼があり共同で事業を行うこととなった。

（２）運営体制・組織

- 茨城高専電子制御工学科、茨城大学工学部が主に座学を担当し、民間企業 2 社が実習を担当している。また、第 3 セクターのひたちなかテクノセンターのコーディネータが講座の企画運営を行っている。また、茨城県工業技術センターも協力している。
- 講師は教員と企業の技術者が担当し、サポートとして学生の TA が入っている。また、ハードウェアの製作などのサポートを技術職員が行っている。

（３）事業内容

- 講座は、「組み込みシステム基礎」、「組み込みシステム開発論」、「組み込みシステム開発演習」の 3 つの科目で構成されている。「組み込みシステム基礎」を茨城高専が、残りの 2 科目を茨城大学が担当している。茨城高専では IC レコーダ、茨城大学ではリモコンの製作を通して実習を行っている。
- 実施期間は、8 月から 9 月の夏休み期間中で各科目 4 日間の短期集中講座となっている。また、実施時間は各科目 90 分×15 コマである。実施場所は、「組み込みシステム基礎」が茨城高専、残りが茨城大学工学部日立キャンパスである。受講料は徴収していない。
- 受講者の募集は各機関のホームページ、新聞広告、ひたちなかテクノセンターから民間企業（300～500 社）への FAX、ソフトウェア協会からの FAX などで行った。受講対象は社会人で、初年度は 15 名の定員に対して、18 名の応募があった。
- 各科目の合格者に科目履修証明書を、全科目履修者に修了証明書を発行している。各科目の合否はレポートとテストで評価している。また、将来的には単位として認めたい。（それを意識して実施時間を決めている。）
- この講座は正社員の受講生が多いが、この講座受講後、2 名の就職が決定した。

（４）学び直し事業終了後について

- 事業終了は 1 年先であるが、県から補助を出すので継続してほしいとの依頼がある。

（５）その他

- 複数の機関が関係するのは珍しいので採択されたのではないかと担当教員はおっしゃっていた。



ハードウェア(IC レコーダ)